

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成17年8月4日(2005.8.4)

【公開番号】特開2003-205518(P2003-205518A)

【公開日】平成15年7月22日(2003.7.22)

【出願番号】特願2002-5980(P2002-5980)

【国際特許分類第7版】

B 2 9 B 7/38

C 0 8 J 3/20

// B 2 9 K 23:00

C 0 8 L 23:00

【F I】

B 2 9 B 7/38

C 0 8 J 3/20 C E S Z

B 2 9 K 23:00

C 0 8 L 23:00

【手続補正書】

【提出日】平成17年1月5日(2005.1.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

このような連続式混練機を用いた方法として、特開平08-224735号公報では、最上流に位置する液体供給部での混練機内部が飢餓状態であり、かつ液体供給部から供給された液体と高分子物質との混練を最初に行う部分での混練機内部が飢餓状態となる混練方法が開示されている。ところが、このような方法では、混練部分の飢餓状態の変動により混練状態が左右され高分子物質-液体混練系の品質均一性に劣っていたり、連続式混練機先端の昇圧部分の上流側において少なくとも1つの高分子混練物充満部分を設けていないため高分子物質の未溶融物が多数含まれたりしていた。同様の方法にてポリオレフィンと液体との混練については、特開平8-245799号公報、分子量100万以上の成分を含有するポリオレフィン樹脂については特開平8-245798号公報等が開示されているが、同様に未溶融物の含有性、品質の均一性に問題があった。

また、特開平8-120093号公報にはポリオレフィン樹脂供給部と最上流に位置する液体供給部の間の少なくとも一部における混練機内圧を最上流に位置する液体供給部における混練機内圧より大きくなるように設定する方法が開示されている。この方法においては高分子の塊が一旦押出機の中で形成されるために、これも液体の均一分散性に問題があるものだった。